



# NEWS LETTER 特別版



## 平成28年度グローバル女性人材養成プログラム（ベトナム）特集

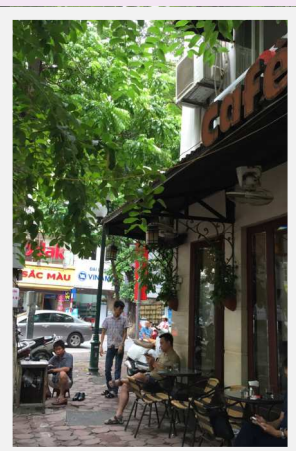
2016年8月17日から8月30日まで、ベトナムのハノイにて協定校であるハノイ貿易大学の協力のもと国際交流センター主催グローバル女性人材養成プログラム(ベトナム)を実施しました。本年度は、16名の学生が参加しました。参加学生は、研修を通してベトナムの社会・経済・文化・言語を学ぶと共に、ハノイ貿易大学の学生と交流し、彼らとの絆を深めました。ベトナムについて知るだけでなく、自国の社会や文化を改めて見直すきっかけにもなったようです。



文廟にて



サバの風景



ハノイの街の風景



ハノイ貿易大学前



ハロン湾にて

### 研修内容 Schedules & Details

8月17日 ハノイ到着	8月18日 オリエンテーション 交流会	8月19日 授業：「ベトナム概観」 女性史博物館見学 水上人形劇鑑賞	8月20～8月21日 クアンナムキャンパスの国際学生交流会 ハロン湾見学	
8月22日 授業：「ベトナム経済概観」 トヨタベトナム工場の見学	8月23日 農業体験：茶摘み 水田見学	8月24日 授業：「旋律で聴くベトナム」 民族学博物館見学	8月25日 授業：「ベトナムの手工芸村及び工業発展」 焼き物体験	8月26日 文廟見学 ベトナム料理実習
8月27～8月28日 サパ見学 モン族の村見学		8月29日 閉会式	8月30日 帰国	

### 研修までのスケジュール Steps

- 4月19日 募集説明会
- 5月13日 願書提出締切
- 5月26日 第一回渡航説明会
- 6月13日 ベトナム研修勉強会
- 7月6日 第二回渡航説明会
- 7月15日 必要書類提出締切
- 8月3日 ベトナム研修最終説明会
- 10月7日 研修レポート提出締切
- 11月15日 帰国報告会

### ハノイ貿易大学の概要 About FSVU

ハノイ貿易大学は、ベトナムのハノイ市に位置し、1960年に創立された、外交官や政治家、その他各界のリーダーを輩出するベトナム有数の難関国立大学である。特に経済系分野はベトナム国内でトップクラスである。また、英語のプログラムが非常に充実しており、立地もハノイの中心部なので、学生にとって魅力的な留学先である。2010年に、本学と国際交流協定を締結し、毎年、交換留学生を受け入れ、積極的に交流を進めている。

# 研修参加者の声

海外での経験、プログラムの感想や今後の進路への影響などについて参加学生の声を集めました。

## 授業や体験活動について

### Classes & Activities



ベトナムの民族楽器の授業風景

ベトナムについての講義や博物館を巡ったことで、ベトナムは昔から中国からの影響を最も強く受けていることや、フランスに占領されたのは長い歴史の中で割と最近で短いということ、ベトナム戦争では多くのベトナム人女性が活躍したということを知りました。

ベトナムの地理・歴史については中学・高校で軽く触れた程度で、ベトナムの文化・経済に関する知識もほとんど持っていなかったため、正直、今回の短期研修が不安でした。しかし、ハノイ貿易大学でベトナムの地理・歴史をはじめ、様々な文化・政治・経済・貿易・言語等を、図表を用いて、終始日本と比較しながら分かりやすく説明して下さったことで、心配なく、今回の研修で体験した事柄全てに対して、関心を持って取り組むことができました。また観光名所を訪問した際にハノイ貿易大学の学生さんや武藤先生が説明して下さったあらゆる事柄から、ベトナムでの様々な風習・伝統的な考え方を学ぶことができました。

数々の博物館に行くことができたので、より深くベトナムについて理解することができた。特に、元々、女性問題に興味を抱いている私にとってベトナム女性博物館で学んだことは多い。例えば、女性問題に関する風刺画があったが、生活形式が全く日本とは異なるベトナムにおいて、女性がどのような点で苦しみを抱えているのかという問題について考えるのは興味深かった。また、ベトナム戦争への女性の貢献について取り上げられていたのが驚いた。戦争は、主に男の人に焦点を当てられがちである。

どのように女性達があの残酷な戦争を生き抜いてきたのか、という点について、帰国後ももう少し勉強してみたいと思っている。

「旋律で聴くベトナム」の授業では、ベトナムの伝統的な楽器に実際に触れることができ、その楽器を鳴らすこと自体が難しいことや、スティックの端が、何重にもまかれた輪ゴムのようなものでできている点など、実際に触ったり弾いてみないと分からないことも発見することができました。

ベトナムでは54の少数民族が暮らしており、服の刺繍や帽子が特徴的である。また、昔は木や竹で作られた高床式住居で暮らしていた。また、同じ国でも南部と北部で気候、伝統、方言のみならず顔や食事も異なっていることが分かった。

サパでは、教科書で見るとような少数民族に実際にたくさん会うことができました。彼女たちが実際に刺繍をしているところを見、彼女たちの手から実際に商品を買ったという体験に感動しました。しかし、子供が赤ちゃんを連れて物を売り歩く姿や、長い時間をかけて作った商品がとても安い値段であることが気になりました。今回のプログラムでは、一般的な旅行では体験できない行事が数多く組み込まれていて、貴重な経験をたくさんできました。

ベトナム料理を作る体験した。ベトナム人の指導の下、バインセオ、揚げ春巻き、バインクオンを実際に作って見て現地の味を味わうことが出来たのもとても有意義であった。

ベトナムに進出している日本企業の工場見学もした。やはり外資系の企業ということもあり、ベトナムの一般企業よりも給料が良く、入るのも難しいというベトナム人の話も聞け、第三者から見た日本企業に関する意見が新鮮だった。



ベトナム料理実習



焼き物体験

最も印象に残ったプログラムはトヨタベトナム工場の見学です。作業場は人数がとても多く、あまり機械化されておらず、雰囲気としては町工場に近いものがありました。人の目で点検するという日本式の作業方法やきちんと研修期間が設けられている点はとても素晴らしいと感じました。また、トヨタの慈善活動への積極的な参加やベトナム経済の発展に貢献する姿勢に非常に感銘を受け、トヨタという企業に強い関心を持ち日本のトヨタ工場はどうであるのか、という興味が湧きました。

## 学生交流を通じて

### Communication

ハノイ貿易大学の学生たちとの交流の中で、ベトナム語の発音や文字がいかにも独特で難しいものかを知ることができた。私は語学が好きなので、この研修を機にベトナム語をもっと勉強したいと感じた。

私は中学の頃から英語に苦手意識があり、英語の授業で問題が解けても、自分が英語を話せるようになってきているのかよく分かりませんでした。今回の研修では、初めて日本語が全く通じない方と話す機会があり、英語で必要なことを伝えることができてうれしかったです。勉強した言葉が伝わることを実感できました。また、少し速く話されると周囲の会話が全く理解できなかったり、自分の言いたいことが伝わらなかったりと悔しい経験も多くありました。3年生から英語の授業はなくなりますが、勉強を続けたいと思いました。

ベトナム人の日本語における学習意欲は目を見張るものがあり、実際には守らない生徒もいるようですが、朝の6時から授業を開始することにはとても驚きました。彼らはとても勤勉で、合理的で、知識の獲得について高い欲求を持っているので、その点は私たちに欠けている点であるので、見習うべきであると思いました。

同じ学生同士通じ合うこともたくさんあって、根本はみんな同じであり、気が合う合わないなどは人種、国籍などは関係なく、結局その人の人柄であることを強く感じました。

## ベトナムで感じたこと

### Thoughts from Viet Nam

東南アジアの現状や、現地の方の生活を肌で感じることができた。一番驚いたのは、街の活気である。道端で、数多くのお店が開いていて、生肉や新鮮な海鮮を売っている。そして、時には、生きた鶏などをさばいたりもする。日本とは違う光景が私には、新鮮で生き活きとして見えた。みんなと一緒に道端で小さな椅子にすわって、ご飯やデザートを食べたり、果物を買うことは私にとって、非常に楽しかった。また、ベトナム語もよくわからぬまま空き時間に、一人で街を散歩し、ごはんを注文し、買い物できたときなどは、一種の達成感を感じることもできた。

研修中はベトナムの発展の目覚ましさを特に感じました。研修の後半で訪れた町では、建物の半分以上が工事中という様子でした。商店や交通にも活気があふれていて日本との差を感じました。



農業体験—茶摘み体験

ベトナムは、さまざまな課題が明確に見えている国であると思うので、その課題に一つ一つ取り組んでいけば今後の発展は確実なものであると思いました。またこのような発展のためには、国家間の援助が必ず必要になってくるということを改めて思いました。

実際に街に出て歩いたり買い物をしたり食事をしたりすることで、ベトナムならではの多くの文化をさらに強く感じる事ができた。まず驚いたのは、値切り交渉の文化だ。日本では値切るという経験をするのはまずなく、初めはどのようにすれば良いのか分からず戸惑っていたが、先生や現地の学生のアドバイスによって徐々にやり方を理解する事ができた。

日本にいるときは当たり前としか思っていなかったことが、いかに大切で自分の中で大きな存在か気づく事ができました。食生活はもちろん、生活文化や学校様式も全く異なる環境で育つと、考え方や感じ方が異なり、何が当たり前か違ってくるというのを身に持って体感しました。しかし、違う世界を見ることで自分の視野が広がり、考え方が異なったことも事実です。朝早くから夜遅くまで働いたり、道端でお茶を飲みながら談笑していたりする生活様式は実際に体感してみないとわかりません。日本をしばらく離れてみることで、今までは気づくことのできなかつた、違う視点から日本を見ることができてとてもいい経験になったと思います。



モン族の村見学

## 今後に向けて

### Future

私自身、日本から出る必要も英語を学ぶ必要もないと思っていたところがあった。しかし、今回の研修で、日本以外の国に行くことで日本を客観的に見ることができるようになった。日本の企業で働くにしても、世界を知らないで成長することはできないのではと思うようになった。日本という小さい範囲で物事を考えないで、もっと視野を広げて将来をみて、大きい範囲で物事を考えるようにしようと思う。

今までは、日本国内で働くということだけを視野に入れていたが、今回の研修では、多くの日本企業が海外に進出し、現地の人々の生活に密着しているということを知り、海外に目を向けた企業に興味を持つようになった。

今回の研修で、英語圏ではない国ベトナムへ行かせてもらいましたが、英語の万国共通性を改めて実感しました。ベトナム語が話せなくても、英語で通じる。母国語に加えて英語ができるのは当たり前。このようにハイレベルな英語力をもったベトナム人、そしてドイツやフランスからの留学生から強い刺激を受けました。とりあえず今できることでいうと、読める書ける英語よりも、話せる聞き取れるもっとハイレベルな英語を習得することだと思います。それを身に着けてから、今回博物館で見た、国際協力の活動や、また、発展途上国の現状に対する活動など、興味を持った分野に進むことができたらいいなと思います。

少数民族との交流を通し、私たちの購入費の一部が彼らの生活の援助に使われていることを知り、今まで机上の空論であったフェアトレードの概念を実感することができた。今後フェアトレードと民族の関係についても研究していきたいと思っています。

奈良女子大学国際交流センター-Newsletter 特別版

2017年1月発行

奈良女子大学国際交流センター 担当：潘 建秀

〒630-8506奈良市北魚屋東町

TEL:0742-20-3457 Email: iec@cc.nara-wu.ac.jp